

どさん子ラウンド報告書

【令和4年9月10日（土） 北海道教育大学札幌駅前サテライト】



令和4年度北海道・東北ネットワーク研究会「どさん子ラウンド」が北海道札幌市で開催されました。今年度も対面と ZOOM を用いたハイブリッド形式で行い、会場に集まった参加者には、手指消毒やマスク着用など、感染防止対策に協力いただきました。

対面では北海道内外から7名、オンラインでは8名、計15名の参加があり、「子どもたちの『挑戦心』や『自己肯定感』を高める授業の工夫について」をテーマとして、北海道はもとより、日本の体育・保健体育の発展・充実に向けて、北の国で熱い研究会が開催されました。

1 発表【北海道教育庁健康・体育課 主任指導主事 田中貴博氏】

令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の北海道の調査結果と課題について発表しました。特に、児童生徒の内面と体力・運動能力等の状況について、北海道は全国平均等と比較し、運動やスポーツに対する「愛好的態度」は小・中学校男女ともに同等である一方で、「挑戦心」や「自己肯定感」は低い傾向にあることが課題と説明していました。

改善に向けて、仲間と協働的に課題解決に取り組む場面の意図的・計画的な設定や、技能の高まりや思考の深まりなどの自己変容の実感など体育・保健体育授業の改善・充実などに取り組んでいくとのことでした。

2 説明【日本女子体育大学 教授 高橋修一氏】



高橋先生からは、まず始めに、自己肯定感とは何かや、自己肯定感、社会参画に関する意識など日本の子どもたちの状況について説明がありました。また、例えば体育・保健体育の学習活動の中で、児童生徒が互いに認め合い、励まし合い、教え合うなどの場を積極的に設けることなどにより、児童生徒の挑戦を促すことは、体力の向上や自己肯定感を高め、そのことが次への調整へと結び付くと考えられるとの文部科学省の調査報告書を紹介するとともに、学習指導要領解説の表記と想定される姿の説明を通じて、自己肯定感を高めるヒントをいただきました。

3 ワークショップ「子どもたちの『挑戦心』や『自己肯定感』を高める授業の工夫について」

4グループに分かれて、柱1「愛好的態度、自己肯定感が高まる授業のアイデア」と柱2「体力向上を日常化するためのアイデア」の2つについて協議を行いました。

柱1では、子どもたちが教え合う場面の設定や、苦手な子どもが運動を好きになる仕掛け、技能の習熟に応じた課題の設定など、柱2では、運動が嫌いな子どもからヒントを得ることや、取組のネーミングの工夫、外部の人材や団体の活用など、様々なアイデアが出されました。

4 まとめ【桐蔭横浜大学 教授 佐藤豊氏】



佐藤先生からは、ブルームの教育分類学から「情動的領域」、自己決定度と内発的動機づけの関係、A.H.マズロウの欲求五段階説などを基に、達成、承認、やりがいのある仕事など内発的動機付けの要因について説明がありました。また、「楽しいから」「興味があるから」などが動機付けの高いものになり、体力を高めることそのものが「楽しい」ということが、体力を高めることにつながるのではないかとのことでした。最後に、ルソーやデューイなど哲学者の言葉を紹介し、過去の教育史を遡ることも面白いとお話していました。